

令和7年度

令和7年4月1日



学校経営計画

『～たい』があふれる学校
～心通わせ、夢を育み、感謝あふれる児童～



瑞穂町立瑞穂第四小学校
校長 高橋 一 広

1 はじめに

『～たい』があふれる学校～心通わせ、夢を育み、感謝あふれる児童～をめざして

人は誰でも「幸せになりたい」という願いをもっている。学校生活では、褒められたり新しいことを知ったり、できないことができるようになったりしたときなどに幸せを感じる。「～したい」という夢や希望をもち、それに向かって挑戦していくことが大切である。そこで、今年度は児童の「やってみたい」「知りたい」「できるようになりたい」などの「～たい」があふれる児童の育成を目指していく。また、教職員も「授業改善を工夫して分かるようにさせたい」「できるようにさせたい」など、学校全体で「～たい」があふれる環境を作りたい。「タイ（～たい）のかん（感謝）づめ」を合言葉に、「～たい」という夢を叶えるために支えてくれている人への感謝の気持ちを忘れずに、希望あふれるよりよい瑞穂四小を築いていく。

さらに、今年度も教育目標「しっかり考える子」を重点目標として、「仲よくする子」「すすんで取り組む子」の育成を目指し、教育活動の充実を図る。また、学習に向かう3つの構え「身構え・心構え・物構え」を意識し、生活を豊かにする3つの行動「時を守り、場を清め、礼を正す」指導の徹底を図る。

2 瑞穂第四小学校の教育目標

【教育目標】◎しっかり考える子 ○仲良くする子 ○すすんで取り組む子

【目指す児童像】 『～たい』があふれる学校
～心通わせ、夢を育み、感謝あふれる児童～

- ① 人と関わり合っていく中で、心を通わせ、お互いを思いやること。
- ② 「～したい」という夢や希望をもち、それに向かって挑戦していくこと。
- ③ 夢の実現のためには、全ての人に感謝の気持ちをもつこと。

誰一人取り残さず、全ての子供が将来への夢と希望を、そして周りの人への感謝の気持ちをもって、自ら学び育つ教育を実践していく。

【目指す学校像】

- 挨拶と笑顔のあふれる学校
- 安心・安全な学校 ○信頼される学校

【目指す教師像】

- 深い愛情と使命感にあふれ、自ら模範となって協力し合える教師

学習に向かう3つの構え …「身構え・心構え・物構え」
生活を豊かにする3つの行動…「時を守り、場を清め、礼を正す」

(1) 学びの構えの育成（重点）

「3つの構えを徹底し、学習習慣を確立させ、『～たい』があふれる児童を育成する。」

- ① 学習に向かう3つの構え「身構え・心構え・物構え」の指導を徹底し、話の聴き方や座り方などの基本姿勢を身に付けさせ、「しっかり考える子」の育成を図る。
- ② 児童が自ら「～たい」と思えるような「主体的・対話的で深い学び」の指導方法を工夫し、学びに火をつける。
- ③ 授業の始・終の挨拶と学習時間を守った授業展開を進め、学習規律の徹底を図る。
- ④ 「家庭学習のすすめ」を活用し、家庭学習の進め方や困ったときの対応方法を身に付けさせ、意欲的な宿題への取組を徹底させる。
- ⑤ 「学習の自立」（主体的な学習）を目指し、地域学校協働本部「学びのテーマパーク」の充実を図る。ノート見開き2ページの自主学習に取り組みせ、自ら進んで学ぶ力を育成する。

(2) 確かな学力の向上（重点）

「『個別最適な学び』と『協働的な学び』の充実を図り、授業改善を行う」

- ① 組織的に学年児童を指導し情報を共有化するために、小学校教科担任制を導入する。より質の高い授業を行うことで児童の理解度を高め、学力向上につなげる。教員の授業数の軽減により教材準備等の効率化を図る。
- ② 児童一人一人の実態に応じた「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
- ③ 「主体的・対話的で深い学び」を通し、思考力・判断力・表現力の向上を図り、児童の自立する力を育成する。また、1単位時間のめあてとゴールを明確にし、児童に見通しをもたせ、多様な考え方を引き出す授業改善に取り組む。
- ④ 個に応じた指導の充実のため、習熟度別算数指導を第3学年から6学年で実施し、個に応じた指導を通して学力の向上を図る。また複数教員での基礎・基本の学習指導を通し、学習内容の定着を図る。
- ⑤ 「個→集団→個」の流れで、一人一人に考えをもたせる指導を実践する。また、「しっかり考えさせる課題」を与え、自分の考えが認められる授業展開を工夫し、自己肯定感を高める。ひかり学級を中心に、全学級で実態に合わせ教科や単元の中で各自の課題に合わせたゴールを設定し、自由進度学習を取り入れる。
- ⑥ 一人一人に合った多様な学びと学び方の工夫、言語活動の充実、大型ディスプレイや学習用タブレットなどのICT活用を推進する。教科・単元の内容を踏まえ、デジタルとアナログの効果的な活用を推進し、「できる楽しさ」「分かる楽しさ」「認められる楽しさ」を味わわせる。

(3) 豊かな心の育成

「人権意識を高め、道徳的な心情や実践力を身に付けさせる」

- ① 人権尊重の精神を基調にし、人や自然との多様な関わりを通して、自他の「いのち」を尊重する態度を育む。そして、互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる仲間集団を育て、「仲よくする子」の育成を図る。
- ② 「思いやりシート」の活用や「なかよし川柳」の取組を通して児童の人権意識を高め、心の通う対人関係の素地を養い、人権尊重教育を推進する。
- ③ 道徳的な判断力、心情、実践意欲を育てるため、「特別の教科道徳」の授業を要とする教育活動全体を通して、道徳授業の充実を図る。

(4) 特別支援教育の推進

「児童一人一人を大切にした特別支援教育と相談体制の充実を図る」

- ① みどり教室、ひかり学級と通常の学級との連携による指導の充実を図り、教員の資質と能力を高める。障がいがある人への理解を深め、差別や偏見を見逃さない人権

教育を行う。また、ユニバーサルデザインに基づいた指導や学習環境の整備等の工夫を通常の学級でも活用する。

- ② 連携型個別指導計画・学校生活支援シートを作成・活用し、特別支援コーディネーターを中心に特別支援委員会において実施状況と方針の確認を行う。また、校内委員会や特別支援会議を充実させ、一貫性のある支援・指導をする。
- ③ 特別支援教室専門員、都スクールカウンセラーや町専任相談員、スクールソーシャルワーカー、家庭と子どもの支援員等と連携し、校内の相談体制の充実を図る。また、特別な支援が必要な児童の豊かな学びにつながる個に応じた指導を工夫する。

(5) 生活指導の充実

「組織的で計画的な生活指導を通し、安心・安全な学校を目指す」

- ① 相手を尊重し、自分の心を磨き、関係を良くして心を開くことができるよう、生活を豊かにする3つの行動「時を守り、場を清め、礼を正す」指導の徹底し、自律する力の育成を図る。

【時を守る】時間を守ることで、相手を尊重することにつながる。そして自分自身の信用を積み重ねていくことができる。【場を清める】掃除をすることで「気付く」「心を磨く」「謙虚になる」「感動の心を育む」自分の心を磨き広く深く豊かにしていくことにつながる。【礼を正す】挨拶や返事をするすることで、相手に心を開き、人間関係が良くなる。※つまり「時を守り、場を清め、礼を正す」とは、人を大切にし、自分を高め、関係を良くしていくことである。

- ② 挨拶と時間を守った行動を重点として、基本的生活習慣の確立を図る。場や相手に応じた言葉遣い、社会性や規範意識を児童一人一人にしっかりと身に付けさせるために、教職員全員が一致した指導を行う。
- ③ 教育活動全体を通して、児童一人一人を肯定的に評価し、自己指導力、自己肯定感、自尊感情を育むことに努め、自信をもって自ら行動し、人を思いやって共に行動する「すすんで取り組む子」の育成を図る。
- ④ 基本的生活習慣の確立のため、全校朝会で生活目標の意識付け、各学級で生活目標の振り返りを行う。
- ⑤ 全校児童を全教職員で見守り、「四小のきまり」や「四小生活指導の手引き」を活用して社会性や規範意識を身に付けさせ、一貫性のある生活指導を実践する。
- ⑥ 児童自らが安心・安全について考え、行動できるよう安全教育の充実（日常安全、交通安全、災害安全）を図り、危機管理能力を育成する。
- ⑦ いじめ問題対策委員会や不登校対策委員会を定期的に関き、情報を共有するとともに、方針の見直しや組織的な確認を行い、「迅速・的確・誠実」に対応することで、未然防止と早期発見・早期対応に努め、安心できる学校づくりを推進する。
- ⑧ 児童や保護者の心理的な安定や生活改善を図り、児童が安心して相談できる体制や居場所作りを推進する。
- ⑨ 生活指導夕会、生活指導全体会、特別支援会議等を活用し、児童理解を深めるとともに、児童や家庭の情報の共有化や指導の一貫性をもつことで、「報告・連絡・相談・記録」を徹底し、組織的、計画的な健全育成へとつなげる。
- ⑩ 学習スタッフへ具体的な動きを伝え、子供たちに必要な資質・能力を育成するための支援の一層の充実を図る。

(6) 健やかな体の育成

「健康や安全に気を付け、積極的に体力を高めようとする児童を育成する」

- ① 児童に必要な体力を身に付けさせるため「外遊び」を楽しめる工夫を行うとともに、体育でトレーニング要素を取り入れて帯で行うなど効果的な授業改善を工夫する。
- ② 体力調査の結果を活用しながら一学級一実践（シャトルラン、縄跳び、鉄棒等）を

実施し、仲間と協力することを通して児童の体力・気力、運動能力の向上を図る。

- ③ 毎学期「瑞四運動ウィーク」を実施し、運動する機会や運動経験を増やし、運動への意欲の向上、最後までやりぬく気力の醸成、達成感、成就感を味わわせる。
- ④ 「早寝、早起き、朝ご飯」の取組を継続するとともに、感染症予防や食育指導、「栄養・睡眠・休養の大切さ」等、身体の健康に関する保健指導を年間通して実施する。

(7) 研究・研修の充実

「教師としての資質・能力の向上を目指す」

- ① 校内研で「『～たい』があふれる児童の育成—主体的・対話的で深い学びを通して—」を実践し、算数科を通して効果的な指導法について研究を深め授業改善を図る。
- ② 経験年数を超えて、個々の教員の得意分野を広める効果的なOJT研修会をシステム化し、毎月実施する。学期に1回以上互いの授業を見合う機会を設定し、指導力の向上を図る。
- ③ 服務事故防止研修を学期に1回以上実施する。事故の未然防止に努め、教職員一人一人が意識を高くもち、自己の行動や習慣を振り返り自己点検する。事故に結びつくような行動については、互いに指摘し合うことができる職場の風土を築く。
- ④ 学年ごとにワークシートや掲示資料等のデータ管理を行い、工夫した授業の共有化と教材作成の効率化を図る。

(8) 特色ある教育活動

「児童が四小の良さを自覚し、自信をもって生きようにする」

- ① 特別支援教育を推進し、誰一人取り残さず、全ての子供が将来への夢と希望を、そして周りの人への感謝の気持ちをもって、自ら学び育つ教育を実践していく。
- ② 地域の特色を生かした「ふるさと学習『みずほ学』」の活動を推進する。体験的・探究的な学習を通し、未来を創造する力を育成する。「まちの先生リスト」を整備・活用し、瑞穂町に住む人々の活用と連携及び地域資源の活用を実践する。
- ③ 縦割り班活動「ハピクロタイム」を活用した年間の取組を通して異学年交流を進める。各行事等でも縦割り班を活用し、他者とのかわり合いの楽しさを味わわせ、思いを言葉で表現する能力や態度、思いやる心を育成する。
- ④ 毎学期2週間の読書旬間を設定し、読書活動を推進する。読書記録の作成、学校図書館の有効活用を通し、児童への読書意欲の喚起、読書量の増加、読書内容の充実を図ることで考える基盤となる言語環境を整え、豊かな言葉、温かな心を育む。
- ⑤ キャリア教育を生き方の重点とし、多様な関わりを通して、自分の将来に夢や希望をもち、その実現に向けて挑戦しようとする態度を育てる。
- ⑥ 新しい集団の中での人間関係を構築していく力を身に付けさせたり、新しい自分の良さに気付いたりするなどの効果から、毎年全学年でクラス替えを実施する。
- ⑦ 地域防災教育の充実を図るために、消防等の機関と連携を密にし、児童が自らの安全を守り、地域社会に貢献していく意欲と態度や地域防災力の向上を図る。

(9) 家庭と地域との連携

「開かれた学校、信頼される学校づくりに向けて家庭・地域との連携を図る」

- ① 積極的な教育活動の情報発信のため、学校HP「四小ブログ」を毎日更新する。また毎月の学校・学年だよりの発行に加え、各学級・専科通信を月1回以上発行する。
- ② 学校からの便りや保護者会の案内などを、紙だけでなくメール等で配信し、開かれた学校、信頼される学校づくりに向け地域・家庭との連携を図る。
- ③ PTAや地域、社会教育行事に積極的に参加することで、保護者が学校に求めていることや保護者の実態を理解するとともに学校の願いを伝え、相互理解を深める。
- ④ 放課後学習で地域の協力者をお願いするだけではなく、学校が取り組みたいことを発信し、目的を共有して児童が主体的に学習できる環境を整えていく。